

陸普

次官より通信次官へ回答

八月廿空監第百五十四號照會首題、件ニ就
 キテハ「マーシャル」群島ニ適當ナル陸上飛行
 場ナク又小笠原群島方面、飛行ハ禁止シタ
 キ意見嚮ニ付成シ得レハ古界（國）飛行ニ準
 スル経路若ハ「ミッドウェイ」方向ヨリ大吠岬
 以北、入國スル様勸告可然富有意見ニ
 付承知セラレ度

陸普 四四二 號

昭和參年九月壹日





就 行 准 見

0583

海軍次官田谷ノ要旨
一、マレーヤル群島ニハ陸上補給ノ為メ適者ナル
島アリ
二、マレーヤル群島ノ上空飛行之要存ス
三、本群島離著僅ニ其位置等ヲ示シ
指定スルヲアルヘシ

0584

空監第四五四號

陸軍次官殿

遞信次官

昭和三年八月七日

軍務部
3.8.8
480
軍事課

遞信省

陸軍省
3.8.20
午前11時
技術課

「マーシャル」群島ニ米國飛行機發着手續ニ
關スル件

右件ニ關シ今般外務省ヨリ別紙寫ノ通申越有之候處本件飛行機ノ「マ
ーシャル」群島ニ於ケル離着陸及同島通過ノ許否其ノ他ニ關シ貴省御
意見至急承知致度此段及照會候也

0585

飛行機
用島
二奉邦
崎
昭和三年
八月七日

0585

意見

一、カールヤル群島ニ於テ離着陸及
用島、通過並ニ本方諸島ニ迄テ
飛行ハ許サズ難シ

ニ本邦飛行ニ因テ六世皇一周飛行

準備スル至路及ウツドゥエール方向ヨリ大吠

崎以北ニ於テ名スルハ異存ナシ

昭和參年八月廿參日

長澤 邦 部



寫

9850

條三普通第四八七號

昭和三年七月二十八日

外務次官 吉田 茂

遞信次官 桑 山 鐵 男 殿

「マーシャル」群島ニ米國飛行機發着手續ニ關シ
照會ノ件

本件ニ關シ在桑港井田總領事ヨリ左記ノ通り米國ヨリ我カ南洋委任
統治地域「マーシャル」群島經由本邦ニ至ル飛行ニ關シ外國飛行機
ノ本邦領土飛行ニ關スル必要手續ヲ照會シ來レルニ付左記ニテ委細
御承知ノ上右手續及何等心得置クヘキコトモアラハ併セテ至急御回
示相煩度

日本タイプライター株式會社

記

昨夏當地ト布哇間「ドール」飛行競技ニ參加シタル米國豫備海軍少佐 Livingston Irving ト數年前「セント、ルイス」市「ロバートソン」飛行學校卒業後飛行行程六百有餘時間ノ「レコード」ヲ有シ且國際飛行免許（F.A.I.）ヲ有スル邦人青年窪田純孝ト共同ニテ本年九月十月ノ交ヲ期シ當地方ヨリ布哇及「マーシャル」諸島經由本邦ニ飛行ヲ試ミ歸路東京「シアトル」間ノ無着陸飛行ヲモ行ハムトスル内意ニテ不取敢我方委任統治領「マーシャル」群島中ニ於テ前記ノ時季ニ於ケル略一定方向ノ風ニ逆ヒ長サ約一哩巾四五百呎ノ地積ニテ陸上飛行機ノ發着ニ適スル地域ノ有無ニ關シ前述關係者ヨリ當館ニ問合ノ次第有之タルニ付右可然筋へ御移膝ノ上本件外國飛行機ノ

8890

本邦領土飛行ニ關スル必要手續ト併セ何分ノ儀可成早メニ御回示相
成様御取計相成度

日本タイプライター株式会社



開

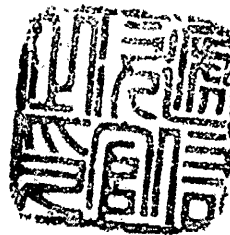
陸軍省
三七七

空監第五七九號

抄清

陸軍省次官 腹

逕 信 次 官



昭和三年九月十一日

「マーシャル」群島ニ米國飛行機發着手
續ニ關スル件

客月七日附空監第四五四號ヲ以テ及照會候右件ニ關シ今般別紙寫
ノ通外務省宛及回答置候條了知相成度此段及通報候也



空襲第五七九號

昭和三年九月十一日

外務次官殿

遞信次官

「マーシャル」群島ニ米國飛行機發着
手續ニ關スル件

七月廿八日附條三普通第四八七號ヲ以テ御來照ノ右件ニ關シテハ「
マーシャル」群島中ニハ先方申出ノ如キ面積ヲ有スル地域ハ固ヨリ
一般ニ陸上飛行場トシテ適當ノ場所無之從テ布哇ヨリ本邦飛來ノ經
路トシテハ「マーシャル」群島上ノ飛行ハ之ヲ避ケシメ布哇ヨリ「
ミッドウエー」島ヲ經由シ大吠岬以北ヨリ入國スル航空路ニ由ラシ
メ度意簡ニ有之尙本邦領土飛行ニ關スル必要手續ハ別紙ノ通ニ有之
條條可然御取計相成度此段及同答候也

1690

追テ本件航空路及飛行禁止區域其ノ他ノ細部ニ關シテハ願書接到ノ
上更ニ指示スルコトト致度爲念申添候

引
イ
イ

(四)

本邦領土飛行ニ關スル必要手續

- 一 航空機ノ國籍及標識
- 一 航空ノ目的及日時
- 一 出發地、到着地、經過地及途中離着陸地
- 一 航空機所屬國ノ下付シ若ハ有効ト認ムル堪航證明書又ハ之ニ代
ルヘキ書類ノ寫
- 一 航空免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫
- 一 航空機乗員ノ氏名、身分及略歴
- 一 航空機乗員以外ノ搭乗人員
- 一 積載貨物及旅行用品ノ有無若シ積載ストセハ其ノ種類及數量
- 一 無線電信機器、寫真機及武器携行ノ有無

一 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

右ノ事項可成詳細記載ノ上本邦飛來豫定期日前尠クモ四十日前ニ日本帝國外務省經由遞信大臣宛提出スルコト